

2022年11月7日開催 2023年3月期第2四半期決算説明会での主な質疑応答

【上期業績について】

Q1 今年度実施した値上げの手応えは。ポテトチップス以外の状況も教えてほしい。

9月より出荷価格を上げているが、ポテトチップスの店頭価格への反映は半分程度。ばれいしよの収穫が順調なことから、適切な販売促進活動を進めていることもあり、数量の落ち込みは見られない。じゃがりこの店頭価格への反映は8-9割程度で、数量はほぼ値上げ前の水準で推移している。それ以外の製品についても、店頭価格への反映は100%ではないが、数量の極端な落ち込みは見られない。

10-11月と店頭価格への反映が進むにつれて消費動向が変化する可能性があるので、注視したい。

Q2 新価値製品・その他スナックの売上について、土産用製品とそれ以外に分けて計画に対する進捗を教えてほしい。

土産用製品の2Q(7-9月)の売上は26億円で計画比+6億円弱と好調に推移。それ以外のコーン系や豆系スナックも計画を上回った。

なお、上記土産用製品の売上には新価値製品・その他スナック以外のじゃがりこ等の売上も含まれている。じゃがりこは、一般流通チャネル、土産用製品ともに計画を上回った。

Q3 海外での改定状況について教えてほしい。

上期の改定効果26億円のうち、北米が9億円、英国が11億円で、残りが中華圏・インドネシア・豪州等。北米は2Q(7-9月)に2回目の価格改定を実施したが、1Q(4-6月)に引き続き好調で数量が伸長した。

【通期見通しについて】

Q4 修正した営業利益220億円の増減要因分析について教えてほしい。

原材料・動力費のコストアップにより、原価が35億円悪化する見込み。

価格・規格改定効果は、上期において11億円計画を上回ったが、下期は計画通りを見込む。通期では83億円となる見通し。

Q5 為替ヘッジしているにも関わらず、想定以上のコストアップが発生する理由は？

国内は通期で期初想定よりも43億円のコストアップが発生する見通し。内訳は動力費と原材料で半分ずつ。

動力費のさらなる値上がりについては、期初時点で見通すことが難しかった。

原材料の想定以上の高騰は、為替の急激な変動によるもの。経常利益は為替差益の発生により期初計画から変更はないが、営業利益は輸入原材料すべてをヘッジしていないため為替変動の影響を受ける。

Q6 海外は営業利益の見通しを修正していないが、国別の状況を教えてほしい。

中華圏は未達の見通しだが、北米およびその他の地域でカバーし、海外全体では計画を達成できる見通し。

北米は、上期はCalbee North Americaの好調により計画を達成。ただし、Warnockは新規OEMを受託しているものの大口顧客のOEMが減少し、売上は1%増収にとどまった。下期も上期と同様の傾向が続く見通し。

中華圏は、通期11億円の増益計画に対して、進捗は思わしくない。ロックダウンの影響で、卸とのリレーション強化による配荷拡大ができていない。ECを強化しているが、再度コロナ感染者数が増えているという情報もあり、通期の計画達成は黄色信号。

【来期の見通しについて】

Q7 事業環境が変化する中で、来期の営業利益 300 億円の達成の確度をどうみているか。

来期 300 億円を達成できるだけのさらなる価格改定は可能か。

コスト上昇分を価格に転嫁していく方針に変わりはなく、300 億円達成に向けて、価格改定の検討を開始した。

海外は、北米・英国を中心にコストアップを価格改定でカバーできており、当期、来期の見通しに大きな変更はない。

一方、国内は、今後様々な食品の価格が値上がりする中で、消費が冷え込むことも想定される。値上げ直後の販売数量動向は悪くないが、少なくとももう数か月進捗をみて判断したい。価格を上げたとしても数量が落ちれば計画達成できないため、タイミングや規模については慎重に決定する。国内の改定タイミングが遅ければ、来期 300 億円に届かない可能性はあるが、来期、再来期等の複数年度でコストアップを吸収していきたい。

以上